

メッセージアウトライン

ルカの福音書 1:1～25「ザカリヤのとまどい」

[1-4]ルカの福音書の序文。初めからの目撃者で、みことばに仕える者となった人々(イス・キリストの使徒たち)が私たちに伝えたそのとおりを、ルカがローマの高官テオピロに順序を立てて書くというかたちで始まる。テオピロは求道者または信仰に入って間もない人物であったと思われる。

[5-10]時はヘロデ王がユダヤを治めている時代。(ヘロデの治世は BC37-AD4)

祭司ザカリヤとその妻エリサベツは年を取っており、子がなかった。彼女は不妊の女であった。ザカリヤはくじによって、神殿に入って香をたくこととなった。これは一生に一度しか担当できない光栄な務めであった。

[11-17]神殿で香をたいているザカリヤの前に突然主の使い(御使い、天使)が現れて、香壇の右に立った。ザカリヤは恐怖に襲われたが、御使いは彼に、怖がらなくてもよいこと。彼の長年の願いが聞かれ、彼の妻エリサベツは男の子を産むこと。その名をヨハネ(主はいつくしみ深い)とつけること。彼はぶどう酒も強い酒も飲まず、まだ母の胎内にあるときから聖霊に満たされ、エリヤの霊と力で主の前触れをし、イスラエルの多くの子らを主に立ち返らせ、そのようにして民を主のために整える働きをすると伝えた。

「エリヤ」…BC 9 世紀にイスラエルを偶像礼拝から立ち返らせるために活躍した預言者。

「エリヤの霊と力で」とはエリヤが当時のイスラエルの民に偶像礼拝の罪を激しく非難し、悔い改めを強く迫ったように、ヨハネも霊的に、そのエリヤと同じ働きをするということ。

[18-23]ザカリヤは御使いのことばにとまどい、「私は何によってそれを知ることができるでしょうか。私ももう年寄りですし、妻も年を取っております」と答えた。彼は主なる神に仕える祭司であり、聖書もよく知っており、そこに書かれている高齢のアブラハムと妻のサラに主の約束によって子どもが与えられたということを知っていたはずである。→創世記 18:10-14,21:1-3

しかし彼は自分に告げられたことを信じられなかった。彼は人間的な理屈や常識でのみ考えたのである。

この不信仰によりザカリヤは子どもが生まれるまで、ものが言えなくなってしまった。

「御使い」…名はガブリエル。この御使いは旧約聖書のダニエル 8:15 以下でも登場している。そしてマリヤの所にも→ルカ 1:26

[24-25]御使いのことばのとおり確かにエリサベツはみごもった。もちろんこれは夫ザカリヤとの間の正常な夫婦関係による妊娠である。しかし、そこに神の恵みによる超自然的な力が働いている。

不信仰は神の働く機会をなくしてしまう。→マタイ 13:58、マルコ 6:5-6 私たちは今日の個所から教訓を学ばなければならない。

